

# 平成30年度 長崎大学大学院多文化社会学研究科 入試概要

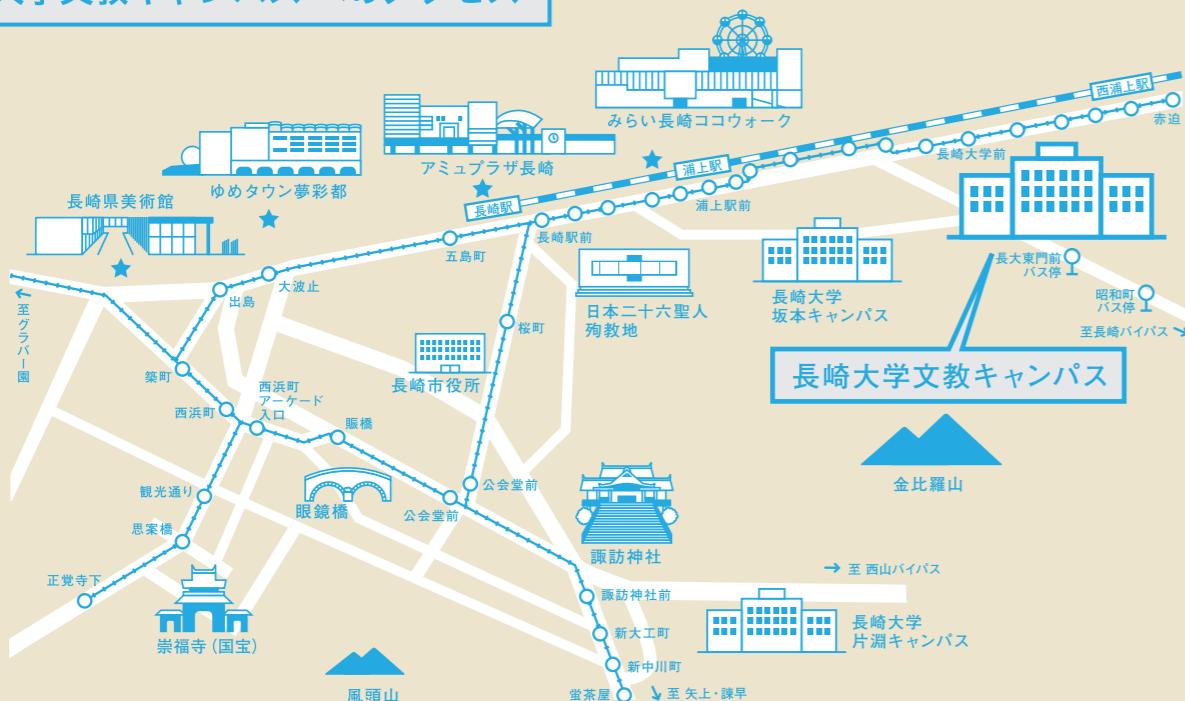
出願前に必ず希望する指導教員と事前に連絡を取り、受験や研究内容・指導言語について十分相談しておく必要があります。指導教員の連絡先がわからない場合は、長崎大学文教地区事務部学務課（多文化社会学部担当）へメールで希望する指導教員及び研究内容を連絡してください。（E-Mail:hss\_gakumu@ml.nagasaki-u.ac.jp）

専攻名称	入学定員	学位名称
多文化社会学専攻 Department of Global Humanities and Social Sciences	10名	修士（学術） Master of Arts

出願期間	平成29年12月11日（月）～12月22日（金）17:00
------	-------------------------------

入学試験日時			
平成30年 2月実施	平成30年2月13日（火）	9:30～11:30	120分 専門科目
		12:30～14:00	90分 外国語 ※外国人留学生の場合は「日本語」
		14:30～	— 面接

## 長崎大学文教キャンパスへのアクセス



### JR 長崎駅もしくはJR 浦上駅から

- 『路面電車』をご利用の場合  
「赤迫（あかさこ）」行き乗車  
「長崎大学前」で下車（所要時間／約10分）料金120円
- 『バス』をご利用の場合  
「1番系統」の『溝川』『上床』『上横尾』行きバスに乗車  
「長崎大学前」下車



### 高速バスをご利用の場合

- 浦上経由長崎方面行きバス「昭和町」で下車  
徒歩約15～20分



### 長崎空港から

- ◎バス（長崎県営バス/長崎バス）利用で約45分  
長崎空港4番のりばから  
・「長崎方面（浦上経由）」行きで「長大東門前」で下車  
・「長崎方面（住吉経由）」行きで「長崎大学前」で下車



# 長崎大学大学院多文化社会学研究科 (H30設置)

21世紀では、文化が諸現象（政治、経済、社会、科学・技術、心理、身体、自然等）と錯綜して、さまざまな問題を形成しています。これら多文化社会的状況における諸問題は、既存の学問的領域を越えて広がることに特徴があります（例：福島原発事故）。それゆえ、これまでの学問的分業では十分な説明や解決が難しく、学問そのものが苦戦する理由となっています。そこで長崎大学では、大学院「多文化社会学研究科（修士課程）」を平成30年4月に設置します。そして、人文社会科学系が本来有する「超域的」かつ「俯瞰的」な専門知を徹底化し、新たな学問としての「多文化社会学」を教員と学生がともに創設していくことで、21世紀社会が直面する諸問題に専門的に取り組むことのできる、知のスペシャリストを育成します。本研究科では、長崎大学に既設の多文化社会学部の課題を発展的に継承し、さらには言語教育研究センターや核兵器廃絶研究センターなど、また学外では、公益財団法人東洋文庫や国立歴史民俗博物館などとも連動して、「多文化社会学」の学術的な専門性と社会的な実践性をより一層高めていくことを追求します。

## ■ 設置の趣旨・必要性

### 文化と諸現象の錯綜

- 20世紀末の東西冷戦構造崩壊後、文化の持つ個別性や独自性、あるいは非寛容性や排他性が露わになり、文化は、政治、経済、社会、科学、技術などに、より深く影響するようになる
- こうした多文化社会的状況の下、21世紀社会が直面し解決を迫られている諸問題は、既存の学問的分業では対応が困難

### 既存の学問領域の限界

- 21世紀社会の諸問題の専門的解決には、既存の学問領域を越えて、専門知の新たな受け皿づくりが必要
- そのためには、人文社会科学系の学問が本来有する力を再編し十分に活かしきれるような、新たな教育研究の場が必要

### 「多文化社会学」が育成する人材

- 人文社会科学系の「超域的」かつ「俯瞰的」な専門知を、新たな学としての「多文化社会学」の下に再編、総合
- 「多文化社会学」の修得を通じて、知のスペシャリストとして、21世紀諸問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことのできる人材を育成



## ■ 特色ある少数精銳教育 (専任教員: 28名)

### 新たな学問としての多文化社会学を教員・学生がともに創る

- 人文社会科学、自然科学を問わず、存在論・認識論・方法論という学問の哲学的土台を、基盤必修科目群を通じて徹底的に修得
- 人文社会科学系が本来有する、基礎的かつ汎用性を持った問題解決能力（批判力・構想力・実践力）を涵養



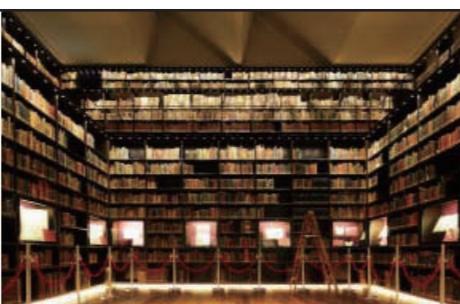
### フィールドワークやインターンシップ等、海外での多様な実践を奨励

- 文化的かつ言語的他者とのコンタクトやインタラクションを通じた、卓越した語学力や情報収集分析力の涵養
- 多様性や環境への認識、文化や他者への共感の深化



### 世界トップクラスの研究図書館・博物館等との連携

- 東洋文庫、国立歴史民俗博物館の特有の専門知を有する研究者からの研究指導、長崎大学東京サテライトとしてサマースクールやセミナーの実施
- アジア・長崎からのグローバル・ヒストリーの捉えなおしを通じた、オリエンタル・スタディーズ分野の世界的リーダーの養成



# 多文化社会学研究科カリキュラムマップ



## 想定する対象者像

- ◎人文社会科学系の学部卒業生
- ◎外国語学部・国際系学部卒業生
- ◎理系学部・大学院卒業生

- ◎日本学やアジア研究に関心のある留学生
- ◎環海日本長崎学・アジア研究に関心のある社会人
- ◎高度実践力を伴う専門的職業人を目指す社会人

### 〈学問のエレメンツ〉

(12単位)

#### 基盤必修科目群

「学問のプラクティス」と相互補完的に連携・統合・展開していくための基礎構築

- 学問のエレメンツⅠ(講義・演習)(2):人文科学(歴史)
- 学問のエレメンツⅡ(講義・演習)(2):人文科学(表象)
- 学問のエレメンツⅢ(講義・演習)(2):社会科学(政治)
- 学問のエレメンツⅣ(講義・演習)(2):社会科学(社会)

人文社会科学の専門知を構成する概念や理論を、改めて学問の土台的基礎(存在論・認識論・方法論)に位置づけ直し、各方法論(ディシプリン)の概念と理論の射程と限界を批判的に検討、再構築を図る。

- 学問のエレメンツV(講義・演習)(2):人文社会科学(文化)
- 学問のエレメンツVI(講義・演習)(2):人文社会科学(宗教)

多文化社会的状況における諸問題を俯瞰的に捉え専門的解決を可能にするための、専門知の超域的活用の受け皿となる新たな学問的枠組みを探求する。

### 〈養成する力〉

- ・問題本質を見極める力
- ・専門知の超域的活用のための力

## 学問のプラクティス(18単位)

### グローバル・スタディーズ科目群

#### 〈身に付く力〉

文化的他者への理解と共感に基づき、異質なものの総合からイノベーションを生み出す批判力・構想力・実践力

#### 【解決を目指す主問題】

- ◎民族、宗教、文化、国家の摩擦や対立
- ◎存在や意味の多様性に対する否定・反動

- 文化表象論特講(2)
- 文化表象論特定演習(1)
- 現代宗教論特講(2)
- 現代宗教論特定演習(1)
- ヨーロッパ社会史特講(2)
- ヨーロッパ社会史特定演習(1)
- アフリカ社会論特講(2)
- アフリカ社会論特定演習(1)
- グローバル社会と脱オリエンタリズム特講(2)
- グローバル社会と脱オリエンタリズム特定演習(1)
- グローバル・ヒストリー特講(2)
- グローバル・ヒストリー特定演習(1)
- カルチュラルスタディーズ特講(2)
- カルチュラルスタディーズ特定演習(1)
- East-West Studies特講(2)
- East-West Studies特定演習(1)

### 政策科学科目群

#### 〈身に付く力〉

政策課題やその費用対効果、政策の適切な方法を学び、政策研究や政策分析を行う批判力・構想力・実践力

#### 【解決を目指す主問題】

- ◎不均衡な資源分配に伴うリスク拡大
- ◎政策・制度・規範と人間の安全保障

- 国際ジェンダー論特講(2)
- 国際ジェンダー論特定演習(1)
- 経済開発論特講(2)
- 経済開発論特定演習(1)
- 国際秩序論特講(2)
- 国際秩序論特定演習(1)
- 地域生態論特講(2)
- 地域生態論特定演習(1)
- トランクショナリティ論特講(2)
- トランクショナリティ論特定演習(1)
- 多文化家族研究特講(2)
- 多文化家族研究特定演習(1)
- 移民政策と家族・地域・教育特講(2)
- 移民政策と家族・地域・教育特定演習(1)

### 環海日本長崎学・アジア研究科目群

#### 〈身に付く力〉

ローカルな文脈に分け入りつつ、普遍的次元で展開可能な方法と理論を構築するための批判力・構想力・実践力

#### 【解決を目指す主問題】

- ◎日本・アジアと世界の交叉・幅縫の中で生じる歴史・文化・社会の問題

- 日本近世史・日蘭交流史特講(2)
- 日本近世史・日蘭交流史特定演習(1)
- 日本儒学・中国学特講(2)
- 日本儒学・中国学特定演習(1)
- 文化遺産論特講(2)
- 文化遺産論特定演習(1)
- 海域交流史特講(2)
- 海域交流史特定演習(1)
- 華僑・華人研究特講(2)
- 華僑・華人研究特定演習(1)
- 現代日本政治外交論特講(2)
- 現代日本政治外交論特定演習(1)
- 現代アジア社会論特講(2)
- 現代アジア社会論特定演習(1)

### 言語多様性科目群

#### 〈身に付く力〉

言語学の諸分野における知見をもとに、言語の普遍性と個別性に対する理解を深化させ、様々な言語使用場面、コミュニケーション場面やレジスターに対応した表現の精選と英語プログラムの立案、実施、及び英語教育者に指導助言できる実践力

#### 【解決を目指す主問題】

- コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出やルール革新等、言語が現実構成の基盤にあることの理解の欠如に関わる問題

- 言語学基礎研究特講a(2)
- 言語学基礎研究特講b(2)
- 英語学特講(2)
- 異文化語用論特講(2)
- 第二言語習得研究特講(2)
- 談話分析特講(2)
- 英語統語論特講(2)
- 言語教育と第二言語習得特講(2)
- 言語理論研究特講(2)
- 言語学特定演習(1)
- 応用言語学特定演習(1)
- 日中対照言語学特定演習(1)
- 日英対照言語学特定演習(1)

### 核軍縮・不拡散科目群

#### 〈身に付く力〉

核軍縮・不拡散分野において人文社会系と理工系および研究と実務の両側面を兼ね備えた実践力

#### 【解決を目指す主問題】

- 核軍縮・不拡散が未完のプロジェクトであることで生じる人道、安全保障、経済面等の問題

- 核軍縮と国際政治特講(2)
- 核軍縮と国際政治特定演習(1)
- 原子力平和利用と核不拡散特講(2)
- 原子力平和利用と核不拡散特定演習(1)
- 核軍縮交渉の法と政治特講(2)
- 核軍縮交渉の法と政治特定演習(1)
- 核物質管理と核セキュリティ特講(2)
- 核物質管理と核セキュリティ特定演習(1)

## 文理融合 プログラム

主選択した科目群から最低9単位(講義6単位+演習3単位)を履修する

#### 【選択科目】東洋文庫選択科目 オリエンタルスタディーズI(2)

#### オリエンタルスタディーズII(2)

#### 【選択科目】歴史民俗博物館選択科目 総合資料学(2)

#### 【選択科目】海外経験選択科目

#### 海外留学(2)

#### 海外フィールドワーク(2)

#### 海外インターンシップ(2)

#### 【必修科目】多文化社会学セミナー(2)

#### 研究指導(4)

修了要件  
34単位

商社・食品・製造等のグローバル企業、フェアトレード現地生産者支援スタッフ(関連国際NGO)

編集者、記者、社会問題・国際問題のアナリスト

文化財担当の地方公務員(文化交流、世界遺産)、発掘専門民間会社

文化的背景を持った教育者・通訳者、教育分野における連続的かつ有機的連携に対する、専門的なアドバイス及びプログラム立案・実施に携わる人材

国際機関、政府、シンクタンク、NGO等で世界のリーダーとなって、核軍縮・不拡散問題の解決に取り組むことのできる実践力を有した人材

目標とする未来像

自らの専門性に加えて、超域的に知と人を繋ぎつつ、理解と共生を第一に、問題の発見・説明・予測・解決に取り組む「多文化社会学」を身に付けた人材

( )内の数字は単位数

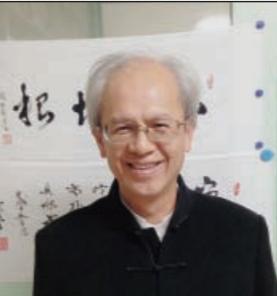
# 多様な知識と経験を持つ教員との出会いも 多文化社会学研究科の大きな魅力

多文化社会学研究科では、長崎、日本、アジア、アフリカ、ヨーロッパなど世界をフィールドとする教員が  
それぞれの専門分野を連携させながら、多文化社会の課題に多面的に取り組みます。

私たちと一緒に、新たな学問としての多文化社会学を創設し、その深化と実践を行ってまいりましょう。



教授  
**吉田 文彦**  
YOSHIDA, Fumihiko  
[核軍縮と国際政治特講]



教授  
**連 清吉**  
REN, Seikichi  
[日本儒学・中国学特講]



教授  
**王 維**  
WANG, Wei  
[華僑・華人研究特講]



准教授  
**カトローニ・ピノ**  
CUTRONE, Pino  
[異文化語用論特講]



教授  
**近江 美保**  
OMI, Miho  
[国際ジェンダー論特講]



教授  
**木村 直樹**  
KIMURA, Naoki  
[学問のエレメンツ I]  
[日本近世史・日蘭交流史特講]



教授  
**首藤 明和**  
SHUTO, Toshikazu  
[学問のエレメンツ IV]  
[現代アジア社会論特講]



教授  
**鈴木 章能**  
SUZUKI, Akiyoshi  
[East-West Studies 特講]  
[現代アジア社会論特講]



准教授  
**グラジディアン・マリア**  
GRAJDIAN, Maria M.  
[カルチャラルスタディーズ特講]



准教授  
**小松 悟**  
KOMATSU, Satoru  
[経済開発論特講]



准教授  
**コンペル・ラドミール**  
COMPEL, Radomir  
[現代日本政治外交論特講]



准教授  
**才津 祐美子**  
SAITSU, Yumiko  
[文化遺産論特講]



教授  
**鈴木 達治郎**  
SUZUKI, Tatsujiro  
[原子力平和利用と核不拡散特講]



教授  
**中村 則弘**  
NAKAMURA, Norihiro  
[学問のエレメンツ V]  
[グローバル社会と脱オリエンタリズム特講]



教授  
**西原 俊明**  
NISHIHARA, Toshiaki  
[学問のエレメンツ V]  
[グローバル社会と脱オリエンタリズム特講]



教授  
**野上 建紀**  
NOGAMI, Takenori  
[言語学基礎研究特講 a]  
[海域交流史特講]



准教授  
**賽漢卓娜**  
SAIHANJUNA  
[多文化家族研究特講]



准教授  
**白井 章詞**  
SHIRAI, Shoji  
[海外インターンシップ ]



准教授  
**鈴木 英明**  
SUZUKI, Hideaki  
[グローバル・ヒストリー特講]



准教授  
**滝澤 克彦**  
TAKIZAWA, Katsuhiko  
[学問のエレメンツ VI]  
[現代宗教論特講]



教授  
**葉柳 和則**  
HAYANAGI, Kazunori  
[学問のエレメンツ II]  
[文化表象論特講]



教授  
**正本 忍**  
MASAMOTO, Shinobu  
[ヨーロッパ社会史特講]



教授  
**森川 裕二**  
MORIKAWA, Yuji  
[学問のエレメンツ III]  
[国際秩序論特講]



教授  
**楊 晓安**  
YANG, Xiaoan  
[言語学基礎研究特講 b]  
[国際秩序論特講]



准教授  
**谷川 晋一**  
TANIGAWA, Shin-ichi  
[英語統語論特講]



准教授  
**波佐間 逸博**  
HAZAMA, Itsuhiro  
[地域生態論特講]



准教授  
**南 誠**  
MINAMI, Makoto  
[トランクショナリティ論特講]  
[移民政策と家族・地域・教育特講]



准教授  
**見原 礼子**  
MIHARA, Reiko  
[移民政策と家族・地域・教育特講]

\*[]内は教員の主な開講科目名です。  
※科目名は変更となる可能性があります。